

日刊 動労千葉

79.7.26
No. 182

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二三五八九・八(公衆)四三(22)七二〇七

総力で7・28国民大集会

動労全国大会を十日後にひかえ、内外の注目のもとに開催される7・28国民大集会はいよいよ目前に迫った。更に全力を尽して、職場から、家庭から根こそぎの決起をかちとっていかう！

国鉄「三五万人体制」粉砕・動労大改革・八〇年代労働運動の戦闘的再生をかちとろう！

7・28集会の第一の重要な意義は、国鉄労働運動解体のための大合理化攻撃をはねかえし、もって八〇年代労働運動の戦闘的再生の突破口をきりひらく事である。公労協最後の戦闘軸たる国鉄労働運動の解体を狙う「三五万人体制」攻撃、そして、その先兵をかって出る動労「本部」革マル反動集団！ この二重の反動をはねのけて前進した動労千葉五ヶ月の激闘と勝利！

今こそ、盛岡の橋本さんや一〇五臨中決議に示された一〇地本一分科の代表の決起等、力強く開始された「動労大改革」運動を爆発的に推進していかうではないか。

労農連帯の旗高く、二期工事紛争・ジェット闘争の一大飛躍をかちとろう！

7・28集会の第二の重要な意義は、われわれが組織をかけ守りぬいた「労農連帯・ジェット闘争貫徹」の旗を更に高く揚げて、まさに開始されんとする二期工事強行・ジェット増送攻撃を断乎としてうちたく強く強固な戦列をしつかりとうち固めることである。

7・28国民大集会の圧倒的成功こそが、その勝利を切りひらく。厳しい条件下で共に闘ってきた全国の闘う労働者・農民・学生・住民・文化人の全ての人々と固く連帯して八〇年代にむかって新たな前進を切りひらこう！ 全力で7・28千葉市民会館へ！

プログラム

司会 北原鉦治 加辺永吉

開会のあいさつ 浅田光輝

各界からの連帯のあいさつ・メッセージ

羽仁五郎 穂積七郎 井上清 針生一郎
石田有全 前田俊彦 中島誠 北小路敏
丸山照雄 柘植秀臣 生越忠 菅野泰ほか

各支援団体のあいさつ

永井満 渡辺喜美江
驚田正平 部落解放同盟千葉県連
女川 沖縄からの代表ほか

空港反対同盟のアピール

戸村一作 石橋政次
石井武 長谷川たけ 内田寛一ほか

動労千葉からの報告

あいさつ 関川 宰
報告 中野 洋ほか

特別報告

動労本部前副委員長 中江 昌夫

支援労組から

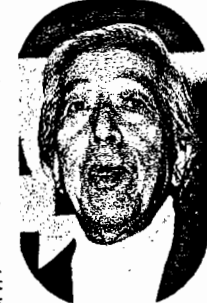
全金本山支部 全通空港支部
全石油スタンダード・バキューム労組
出版労働者連帯会議 三菱長崎造船労組ほか

—80年代をきりひらく動労千葉とともに—

7月28日 午後5時半
千葉市民会館 (国鉄千葉駅より徒歩5分)

動労千葉とともに私はたたかう

羽仁五郎氏



三里塚はパリ・コンミュンだ。動労千葉は労農連帯のかがやかしい手本だ。フランスの鉄道労働者が、ナチス・ヒトラーと英雄的にたたかっただように、国鉄労働者の決起は全人民をふるいたたせずにはおかない。あらゆる弾圧と抑圧に屈せず前進する動労千葉の勝利は明らかだ。三里塚と動労千葉を中心にみんなが隊伍をくんで進むとき、暗雲はひらかれる。

粘り強い情熱と判断を

中島 誠氏

三里塚闘争との共闘連帯は、いまや独占国家とのたかひの性格をもつ。これに自らの反共闘争が結合したものが千葉県下の国鉄労働者のたたかいなのだ。そのなかで、動労千葉は組織内部でのたたかいを強いられきた。粘りつよい情熱と、冷静な判断力をもって、今後がんばっていかれることを期待します。

怒りは義へ到る

丸山照雄氏

三里塚闘争と固く結びあつた動労千葉のたたかいは、八〇年代の閉塞をうち破る一条の光芒である。この光を日本のすみずみにまで到達せしめねばならない。八〇年代はすべての場において対決的矛盾が明らかとなる時代である。日蓮は「怒りは義へ到る」という言葉を遺している。三里塚と動労千葉の「怒り」は、日本の大衆の「大義」へ到る道筋だと私は確信する。



動労大改革の長征開始

高島喜久雄氏

右傾化の日本労働運動の現状のなかで動労千葉の位置はきわめて重要だと思ふ。成田治安立法にみられる時の政府権力が総力をあげて強行せんとする三里塚空港政策に対決し、三里塚農民のたたかいに連帯する質をもってこそ、本来の労働組合である。動労千葉が驚嘆すべき団結力をもってたたかいてくるとは、非常に困難な状況のなかでも、資本の攻撃と原則的に対決し、組合員全体の利益を守り、労働者人民の普遍的利益を代表してたたかう姿勢をもっているからだと思う。動労千葉は、いわば長征への道を開始したものである。これからの時代を勝ちぬいていく労働組合として、困難にめげず、ねばり強く、着実な前進を期待する。